

## 【2】行動分析および【3】支援例

平成 年 月 日 ( ) 年 組 番 氏名

③	<b>書くことが苦手な場合</b>
行動分析	1 文字を正確にとらえたり、記憶したりすることが苦手である
	2 丁寧に文字を書く、構成にこだわり書き写すなどノートを取ることに時間がかかる
	3 順序立てて物事を考えることが難しい
	4 書く内容をイメージすることができない、文章の表現の仕方が分からない



支援例	ア 授業のノートなどは、プリント、ワークシートに書き込むなど、簡易化したものにする
	イ ワードプロなどを活用し、文字を書くということを減らす
	ウ 作文など、他の人の書いた文章をたくさん読ませて、パターンを学ばせる
	エ 作文を書く場合は事前に何について書くか知らせておく
	オ 写真など作文を書くときの手掛りを用意する
	カ 自分の考えや思いを日記に書くことを勧め、教師が時々読んで添削をしたり感想を伝えたりする
	キ 新聞の記事など自分の興味あるものを切り抜き、それに感想を書くことを勧め、それを教師が添削する
	ク 漢字を学習する時は文字の成り立ちやつくりを説明する
	ケ 情報機器(デジカメ等)の活用をする
	コ 教師が板書計画を立て、プリントにする

⑦	<b>不注意さがある場合</b>
行動分析	1 生活リズムの乱れや脳機能に起因した覚醒レベルの低下があり、周囲の刺激に影響されやすくなり、注意がそれてしまう
	2 学業、その他の場面で細やかな注意ができず、不注意な過ちを犯す
	3 順序立てて物事を考えられない、指示をやり遂げられない
	4 長い時間の注意の持続が困難である
	5 全ての情報が聞き取れず、よく知っている言葉、聞き覚えのある言葉など一部の情報ですぐ判断してしまう



支援例	ア 早寝早起き、朝食、睡眠、適度な運動、適切な栄養を摂るなど生活のリズムを整えるよう家庭の協力を得る
	イ やるべきことを一覧表に書き、行うべきことを時系列に並べて優先順位を付けさせる
	ウ 一つの作業が終わるごとに必ず確認する習慣を付けさせる
	エ 多くの課題に取り組ませるときは、質、量、時間に配慮する
	オ 注意が散漫にならないように、不要なものは机や教室から片付ける
	カ 連絡事項など必ずメモを取るよう習慣付けさせる

⑧	落ち着きのなさがある場合(多動・運動過多)
行動分析	1 じっとしていることが苦手で、いつもそわそわしている
	2 多様な刺激を整理するのが苦手である
	3 見通しを持って行動できない
	4 新しい刺激を求めて、次々と興味・関心が移っていく



支援例	ア 座席を教師の前や教室の中央にし、適宜言葉を掛けるようにする
	イ 見通しを持たせるために内容、方法、時間、手順などをあらかじめ知らせる
	ウ 授業の妨げにならない程度の行動は許容する
	エ 多動性を無理に押さえようとせず、授業中に小休止を設定したり、ストレッチ体操などを取り入れたりする
	オ 生徒に完璧な態度を求め過ぎない
	カ プリントを配付する係を任せるなど、体を動かす活動を取り入れる
	キ 休み時間などに十分体を動かす場面を設定する
	ク 対象となる生徒の行動特性を理解している生徒を隣に座らせる
	ケ 指導するときは生徒の人格や個性についてではなく、その行動について指導する
	コ 他の生徒の前で指導をしない
	サ 指導するときは生徒の人格を傷つけるような言葉や皮肉を避ける
	シ 困った行動をとっても感情的にならず、穏やかに理論的に解決する方法を提案する
	ス 机の上を整頓し、授業で必要な物だけ置くようにさせる

⑫	その他の場合
行動分析	1 感覚過敏(例えば音や触覚)がある
	2 運動がうまくできなかつたり、身体の動きがぎこちない
	3 手先が不器用で細かな作業が難しい
	4 自分を安定させるため、ぶつぶつ言うなどの行動をとる
	5 姿勢の保持ができない



支援例	ア 感覚過敏がある場合は、生徒の状況をよく観察し、その辛さを理解し生徒には無理をさせない
	イ 嫌な刺激を取り除く
	ウ 嫌な刺激をどれだけ我慢すればよいのか見通しを示す
	エ 本人、家族の了解のもと生徒が感覚過敏を抱えていることを周囲の生徒に伝え、理解してもらう
	オ 感覚過敏で辛い場合、生徒から教師へ申し出るように教える
	カ 生徒の運動能力を見極め、生徒のできる範囲の個別の課題や役割を与え、実践させ、評価をする
	キ 図や絵を描く、はさみなど道具を使う、文字を書くことに完璧さを求めない
	ク ぶつぶつ言うときのパターンをよく観察し、生徒から事情を聞くことで、生徒の抱える不安を理解し受容する
ケ 休憩を入れ、ストレッチなどを行い正しい姿勢を意識させる	